

行政視察等報告書

2025年 11月 4日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名

代表者 国頭 靖

提出者 土光 均

(議員の場合)

議員名



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	土光均
期日	2025年 9月 13日から 2025年 10月 18日まで
〔視察等年月日・場所・内容〕 オンラインによる基礎学習 (日時) 9/13, 9/20, 9/27, 10/4, 10/11, 10/18 19:00~21:00 (内容) 1) みんなのデータサイトの放射線被ばく防護士とは 2) 原子力災害の歴史 3) 原子力の基本 4) 福島第一原子力発電所内で起こったこと 5) 健康影響 6) 放射線防護の原則と現状の原子力防災体制 7) 福島原発事故の経験から学ぶ一原子力災害下の社会的な動き 8) 避難の判断 国の避難指示を受けてからでは被ばくを避けられない。 9) 空間線量測定 10) 事故直後の防護が大事、8割はここで防ぐーヨウ素 131 と初期被ばく 11) 食べものからの内部被ばくを防ぐーセシウム	

134・137 原子力災害における汚染の拡散

〔視察等の目的〕

福島現地で空間線量計の使い方と実践測定、防護服の着脱、避難者からの体験談を聞く、避難地区の実態把握に備えての事前の基礎学習

〔視察等要旨〕

原子力災害の歴史・原子力の基本・福島第一原子力発電所内で起こったことを学び、今後起こると想定される原子力災害にどのように対処すべきかを以下の視点から学んだ。

- ・原子力災害対策指針を始めとする原子力災害時の法体系
- ・原子力災害対策指針の内容
- ・自治体の課題
- ・災害時の心理的バイアス
- ・福島原発事故の経験から「原子力災害下の社会的な動き」
- ・空間線量測定 of 知識
- ・放射線被ばく of リスク

[視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点]

・本市は、島根原発から30 km圏には約3万5千人が生活をしている。40 km圏内にはほぼすべての市民が該当する。

・福島原発事故を経験し「原発の安全神話」は崩れた。

従って、原発事故は「起きるもの」として、起きたときの対応を事前に準備することが必要となる。

そのための、放射線（特に放射線測定）に対する知識や、国や自治体の的確な対応体制が整っているか精査が必要となる。

この講座で学んだことを元に、実践講座（福島現地での状況を把握し、放射線測定技術を身につける）に臨みたい。

それを学ぶことにより、市や県、さらには国に対して様々な提言をしていきたい。

また、万が一の事故時においても私自身、市民の健康・命をまもるために、適切な対応ができるようになっておきたい。

経 費	旅 費 @	円 ×	人 =	円
	その他 @	4000	円 × 1人 =	4000 円
		合 計	4000	円

(注) 氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。